石川 ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No.147
2024.7.4

ゲラルドゥス・メルカトル、ヨドクス・ホンディウス『東インド諸島図』（部分）
1613-19年　アムステルダム刊【後期展示】　公益財団法人東洋文庫蔵

令和6年度 夏季特別展

知の大冒険

The Great Adventure of Knowledge

――東洋文庫
名品の煌めき――

2024
7.19(金)
→9.1(日)

令和6年度 夏季特別展

知の大冒険

The Great Adventure of Knowledge

——東洋文庫 名品の煌めき——

2024 7.19(金)→9.1(日)

9:00–17:00 展示替えの休館日：8月5日（月）

※展示室への入室は16:30まで／７月19日(金)のみ10:00開場

未知の世界との出会いは、いつの時代も人々の好奇心をくすぐるもの。飛行機もインターネットもなかった時代、人々は航海へと旅立ち、書物が世界を駆けめぐりました。「東洋学」の研究図書館である東洋文庫はそうした知の探究の歴史の宝庫です。東洋世界を案内するのは、教科書で見たことのあるような有名な書物や地図、絵画たち。日本屈指のコレクションの中から選りすぐった名品とともに、東洋の旅へと漕ぎ出しましょう！

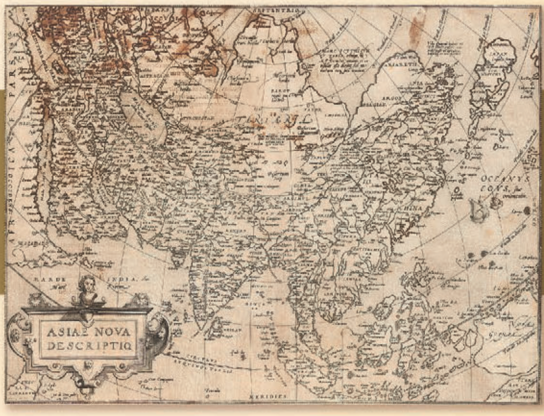
東洋文庫とは？

東京都文京区に位置する東洋文庫は、東洋学分野のアジア最大級の研究図書館です。愛書家でも知られる三菱第三代社長・岩崎久彌が、北京駐在のオーストラリア人ジャーナリスト、G.E.モリソンの旧蔵書を一括購入した「モリソン文庫」を核に、1924（大正13）年に設立され、現在の蔵書は国宝5点、重要文化財7点を筆頭として100万冊を超えます。

資料はすべて公益財団法人東洋文庫蔵

プロローグ

東洋世界への旅のはじまりとして、西洋人がつくった「アジア」の地図をガイド代わりに、紀元前の昔から今日までこの地に生み出されてきた数々の文字を取り上げ、東洋の諸言語を紐解きます。



アブラハム・オルテリウス『アジア新図』1570年　アントワープ刊

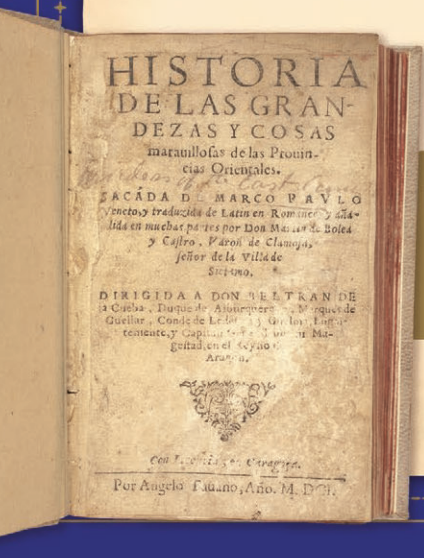
ベルギーの地図作家オルテリウスが製作した世界初の近代地図帳『世界の舞台』に掲載された1枚。大変な人気を博し、ラテン語をはじめ様々な言語の版が作られ、ヨーロッパ各地で広く用いられた。

第1章 東洋の旅

中国、朝鮮、東南アジア、インド、そしてイスラーム世界。東洋の各エリアの文化や風土の特徴的な一面を、百科事典、歴史書、地理書、探検記たちが案内します。

ゲラルドゥス・メルカトル、ヨドクス・ホンディウス 『東インド諸島図』
1613-19年　アムステルダム刊【後期展示】

地理学者メルカトルの地図原版を譲り受けた地図製作者ホンディウスが、新たに36図を加えて改訂し、出版した地図。フィリピン東岸にはイギリスとオランダの東インド会社の商船が確認できる。



第2章 西洋と東洋 交わる世界

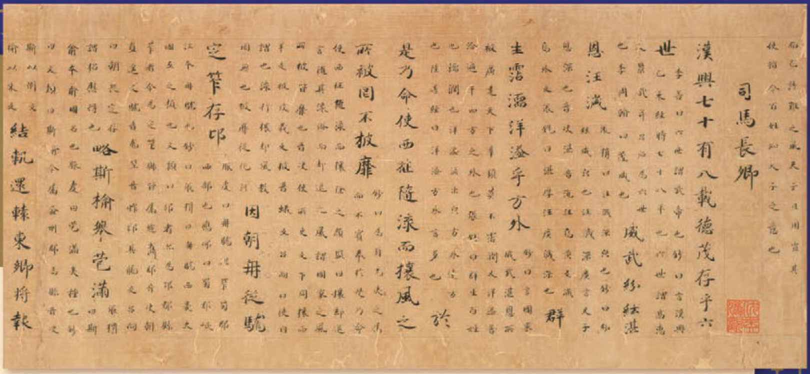
15世紀半ばに大航海時代が幕を開け、東西の航路が開かれます。西洋の人々が東洋を訪れ、見聞きし、体験した事柄を記した書物をお供に、東西世界の交わりを探ります。

マルコ・ポーロ口述、ルスティケッロ著 『東方見聞録』1601年　サラゴサ刊【前期展示】（後期は1602年ベネチア刊を展示）

ベネチアの商人マルコ・ポーロが、東方を旅した際に見聞きしたこと、体験したことがまとめられた旅行記。マルコが語った体験談を小説家のルスティケッロが筆記したとされる。

第3章 世界の中の日本

16世紀以降、西洋の人々が日本という島国にたどり着きました。日本を取り巻く世界の記録を紐解き、日本がいかに生まれ、そして変化していったのか、その道のりをたどります。



国宝

『文選集注』（部分）10-12世紀（平安時代）書写【前後期で場面替えあり】

『文選』は、６世紀前半の中国の王朝「梁」の皇太子・蕭統（しょうとう）（昭明太子、501～531）が編纂した詩文集。日本には７世紀頃に伝来し、教養書として広く読まれた。本巻は、『文選』の代表的な注釈を集めて再編集したもの。

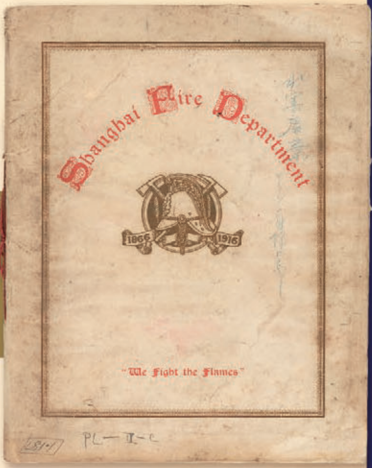
エドワード・ダンカン『アヘン戦争図』

1843年　ロンドン刊【後期展示】

アヘン戦争（1840-42）における、イギリスの軍艦と清の兵船団との海戦を描いた銅版画。画面奥の軍艦は東インド会社が当時の最新技術を投入して完成させたネメシス号である。

エピローグ

東洋文庫の核となる「モリソン文庫」に関連する資料を展示します。大正期に行われたモリソン文庫の水濡れ資料の復旧作業は、現代の文化財保存の在り方とも繋がっています。



水濡れ資料：「Souvenir of the Jubilee of the Shanghai Fire Department」

1917（大正６）年の大型台風の直撃により東京を大潮と河川氾濫が襲い、モリソン文庫を保管していた深川の倉庫が浸水し、必死の復旧作業が行われた。展示資料には、水濡れの跡がそのまま残っている。

関連イベント

記念講演会
「知の大冒険攻略ガイド ― 名品で旅する東洋世界 ―（仮）」

要申込／定員50名（応募多数の場合は抽選）　※聴講無料

日時：８月４日(日)　13:30～15:00
講師：岡崎　礼奈 氏（公益財団法人東洋文庫 普及展示部 学芸課長・主幹研究員）
　　　篠木　由喜 氏（公益財団法人東洋文庫 普及展示部 研究員・学芸員）
会場：当館ワークショップルーム　　申込締切：７月30日(火)必着

学芸員による展示解説

申込不要　※特別展の観覧料が必要です

日時：８月３日(土)　14:00～15:00／８月21日(水)　10:00～11:00
講師：当館学芸員　　会場：夏季特別展会場

ワークショップ「自分だけの絵地図をつくってみよう！」

東洋文庫には見ているだけでわくわくするような絵地図がいっぱい！
その秘密をさぐりながら、自分だけのオリジナル絵地図をつくってみよう。

要申込／定員20名（応募多数の場合は抽選）　※参加無料
※小学生以下は保護者同伴。申込時に保護者のお名前も明記ください。

日時：７月28日(日)
　　　13:30～15:30
講師：鈴木　浩之 氏
　　　（金沢美術工芸大学
　　　美術科油画専攻教授）
会場：当館ワークショップ
　　　ルーム
申込締切：７月23日(火)必着

ウィレム・ブラウ、ヨアン・ブラウ『大地図帳』 1648-65年　アムステルダム刊

ミュージアムコンサート
「西洋と東洋が出会う音楽の旅」
（サクソフォンとピアノによるデュオ）

東洋文庫にちなんで、西洋と東洋の融合したクラシック楽曲と、なじみのあるポピュラーな楽曲を組み合わせて演奏いたします。

申込不要　※参加無料

日時：８月18日(日)13:30～14:10／15:30～16:10（２回公演）
出演：筒井　裕朗（サクソフォン）・堺　洋子（電子ピアノ）
会場：当館ギャラリー（第２棟１階）

申込が必要なイベントは下記の方法で事前にお申し込みください
【申込方法】当館ホームページのイベント参加申込フォーム
　　　　　　または往復はがき
【記載内容】●希望イベント名●お名前（備考欄に参加者全員）
　　　　　　●ご住所●電話番号

連携イベント

「観能の夕べ」企画公演　能「張良（ちょうりょう）」
― 古典芸能で『史記』の世界観を味わう ―

演目：狂言「柿山伏（かきやまぶし）」、能「張良（ちょうりょう）」　（シテ）佐野 由於　（ワキ）宝生 欣哉

日時：８月10日(土)　17:00開演（16:00開場）
会場・お問い合わせ：石川県立能楽堂　料金：2,500円
　TEL＆FAX：076-264-2598
　〒920-0935 金沢市石引4-18-3
　チケット購入は石川県立能楽堂ほか

石川県立図書館とコラボ
本でめぐる「知の大冒険」

県立図書館４Fリングの本棚で、東洋文庫や、その所蔵品を深く知るための本を展示します。

期間：７月19日(金)～９月１日(日)
会場：石川県立図書館４Fリング（西側）

【観覧料】一般／1,200(960)円　大学生・専門学生／960(760)円　高校生以下無料
※(　)内は団体料金・65歳以上は団体料金
障害者手帳・「ミライロID」ご提示の方および付添１名は無料
常設展もあわせてご覧いただけます／加賀本多博物館は別途、観覧料が必要です
電子チケットもご利用いただけます（日時指定なし）

【主　　催】石川県立歴史博物館・読売新聞社
【監　　修】公益財団法人東洋文庫
【特別協力】北國新聞社
【後　　援】ＮＨＫ金沢放送局、ＭＲＯ北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、ＨＡＢ北陸朝日放送、エフエム石川

資料紹介

県内に残る東洋学者の書簡

学芸員　吉田　朋生

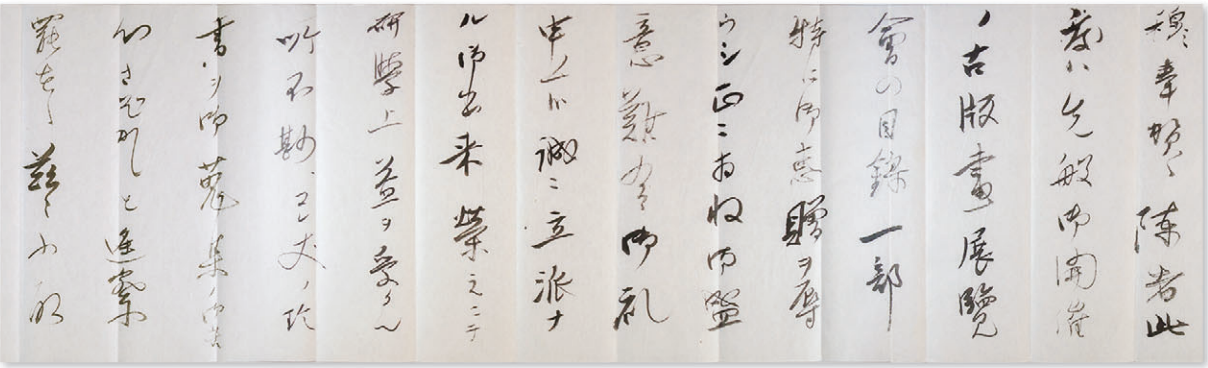
夏季特別展では、東洋学の研究図書館である東洋文庫が所蔵する名品をご覧いただく。本展にちなみ、石川県内に残る東洋学者に関わる資料として、東洋文庫の初代主事が送った書簡を紹介したい。

『長安の春』などの名著で知られる東洋史研究者の石田幹之助（1891-1974）は、東洋文庫の核となる「モリソン文庫」の受託と保全、そして東洋文庫創設に尽力した人物である。1917（大正６）年８月、第一次世界大戦のさなか、幹之助がG.E.モリソンの蔵書を受け取りに北京を訪れたのは、副手（助手の補助職員）として東京帝国大学に在籍していた時であった。その後、同年９月30日の大型台風によるモリソン文庫を保管していた深川の倉庫の浸水と、1923（大正12）年の関東大震災での被災という危機を乗り越え、翌1924年に石田幹之助を主事として財団法人東洋文庫が設立された。

石川県立図書館が所蔵する元県立図書館長・中田邦造の関連資料の中に、石田幹之助の書簡が残されている。幹之助が、1932（昭和７）年11月22日に、中田邦造に宛てたお礼状である。邦造から寄贈された「古版画展覧会ノ目録一部」に対するお礼を述べたものであるが、古版展覧会は、1932年の11月９日から13日の５日間にわたって、当時兼六園内にあった石川県立図書館・石川県商品陳列所を会場として催された。その目録によれば、古版本（経典・古典籍など）や古版画（仏画・浮世絵など）を中心に計461件を展示し、130件を出品した禿氏祐祥（龍谷大学教授）を筆頭に、実に約60か所の所蔵先から展示品を借用している。これに対して幹之助は、書簡の中で**「誠ニ立派ナル御出来栄えニテ、研学上益ヲ受クル所少なからず、コレ丈ノ珍書ヲ御蒐集ノ御苦心さぞかしと遙察罷り在り候」**（画像後半）と蒐集（収集）活動への賛辞の言葉を贈っている。

各地から展示資料を集めることは現代でも大変なことであるが、交通・通信網が発達していなかった当時、各地の書物を石川に集める苦労はひとしおだったであろう。後年のことではあるが、幹之助が1934年に東洋文庫の職を辞し、翌1935年に財団法人国際文化振興協会の職員としてB.H.チェンバレン（東京帝国大学名誉教師）の追悼展覧会を実施した際の寄稿文がある。その中で「然し困ったのは出陳の品物の殆ど九分通りまでが諸家からお借りしてくるものばかりなことであった。僕の持ち合わせの、東洋文庫にいた時の経験は、自分の処のものを自分の処で列べて見せるという、甚だ単純な経験であって物を諸方から寄せ集める方の苦労は一向したことがない。これを余程手際よくやらないと大変だと私に心配した」（「展覧会前記」『石田幹之助著作集　一』、『国語と国文学』1935年４月初出）と収集の苦心を語っている。この言葉を踏まえても、本書簡は何気ないお礼状ではあるが、展示品を集めるために各地をめぐった当時の人々の「御苦心」が偲ばれる。

〔付記〕特別展の準備に際し、石川県立図書館・瀧下彩子氏から本書簡についてご教示いただきました。画像掲載にあたって、石田幹之助氏ご遺族様より格別のご高配を賜りました。記して御礼申し上げます。



「古版画展覧会目録送付御礼と大蔵会目録送付連絡書簡」（石川県立図書館蔵・中田邦造関連資料）
こちらの書簡は、特別展の関連パネル展示「書簡にみる東洋学者と石川」で紹介予定です。

背景画像は『東インド諸島図』（部分）　公益財団法人東洋文庫蔵

特集 令和６年能登半島地震によせて Vol.2

「令和６年能登半島地震」の発災から半年がたちました。職員一同、文化財レスキューを進める中で、改めて「文化財」とは何なのか、それを保全することにどのような意義があるのかを考えない日はありません。
今号の『石川れきはく』では前号に引き続き、災禍における文化財レスキューの現在を特集いたします。発災当初から被災文化財の情報集約および保護活動をリードしてきた能登文化財保護連絡協議会の会長・東四柳史明氏による特別寄稿とともに、文化財レスキューに取り組む当館学芸員の所感をお届けいたします。

大地震に遭遇して能登の文化財に想うこと

能登文化財保護連絡協議会 会長　**東四柳　史明**

令和６年１月１日の午後４時10分に能登半島を襲った大地震は、過疎化が進むなかでも、ささやかな営みを維持してきた能登の人びとに、大きな衝撃を与え、呆然自失の状態に陥らせた。

自宅のある穴水町で被災した者として、当初は損壊した自宅等の復旧にのみ苦慮していたが、やがて長年係わってきた能登の歴史や文化財に想いをめぐらすようになり、能登文化財保護連絡協議会（通称「能文連」）の事務局がある七尾市教育委員会文化課と協議の上、１月25日に、同会の緊急理事会を七尾市で開催した。議件は、地震で被災した文化財の破損状況と所在の確認要請で、協議の結果、２月末日を目途に、能登の各市町から報告された情報を、協力を申し出た北國新聞社の北國総合研究所に、取りまとめてもらうことになった。

能文連は、能登地区の市町村の文化財関係者によって、昭和35年に結成された組織で、現在は宝達志水町以北の市町で構成されている。平成19年の能登半島地震の際には、能登歴史資料保全ネットワークを組織し、被災した文化財の救出支援にあたった。その経験から、今回の取り組みは、震災復旧の公費解体作業が始まる前に、被災した文化財を至急確認し、その救出支援を申し出ていた諸団体と連携して、レスキューを行う必要性を痛感してのものであった。

石川県の能登地区９市町に所在する国・県・市町指定の文化財は、国の登録文化財を加えると1,600件程に及んでいる。このうち今回最も甚大な被害を被った珠洲市・輪島市・能登町・穴水町の奥能登４市町には、その過半数を超える文化財が所在する。そうしたなかで３月８日の能文連の理事会では、205件の被災文化財が各市町から報告され、調査中の輪島市分を加えると330件を超える被害が予測された。またこの時期までに、既に救出支援を進めている文化財は81件とされ、さらに今後増加が見込まれるとのことであった。

その間、２月になって国の文化財防災センター（略称「文防」）が、積極的に能登の文化財支援に乗り出すことになった。そこで能文連では、作成した被災文化財リストが、文防の活動に生かされることで、所期の目的が果たせたものとし、今後は国や石川県に、レスキュー活動やその先の保存修理などの文化財支援を期待して、各市町での文化財復旧に、それぞれ専念することにした。

２月９日、文化庁と能文連の連絡協議の折、七尾市の会場に、10人近い国の関係者が、力強い足取りで続々と姿を現したのをみたとき、大変心強く感じ、「これで能登の文化財は救われる」との想いが湧き上がったものであった。

博物館の責務として

普及課長　鷹野　恵

当館では昨年夏に、能登から多くの貴重な仏像や古文書などをお借りして展覧会を開催しました。この展覧会にはご協力いただいた寺社の地元から沢山のお客様がお見えになり、皆様の誇らしい表情から、地元で本当に大切にされている「宝物」なのだと思い至りました。

私たちの大切な仕事は、所蔵している資料だけでなく石川県の各地で大切にされている貴重な宝物も含めて（お借りして）調査研究し、その結果を広く見ていただいて「石川ってこういった（素晴らしい）歴史があるんだ」そして「石川ってこんなに素敵な所なんだ」という事を広く知ってもらうことだと思います。

普段は当たり前のように「そこ」にあるため、その価値に気が付かない。しかし、無くなってから初めて大切なものだったと気が付く宝物。これを「文化財」と呼ぶときもありますが、文化財に指定されているものだけではなく、まだ本当の価値が見つけられていないだけの多くの大切なもの。歴史に照らし合わせて能登にはそういった宝物が山ほど眠っていることを日本中の人が知っています。

しかし、その「宝物」が今危機に瀕しているのです。

よりによって元旦に起きた未曽有の大惨事。顔が思い浮かぶお世話になった方々の安否が頭をよぎります。皆様の誇りである宝物も。

嘆いていても仕方ありません。大災害から人命を守り、生活を立て直すのは当然ですが、復旧の過程でこれらの宝物が消えてしまっては本当の復興はあり得ないでしょう。

復興は長くて遠い道のりになるかもしれない。そして先述の宝物を救い出し保護するための仕事は始まったものの、日々一歩ずつの戦いになるでしょう。この戦いは国や行政の後ろ盾はもちろん、学術関係者やボランティアの方々の絶大なご協力もいただいて初めて成り立つのですが、それに加えて、宝物を知り尽くした人が必要不可欠であり、ここで博物館員でないと成しえない仕事が出てくることになってくるのです。

我々は、この仕事を「博物館の責務」として明日からまた一歩ずつ戦いの駒を進めなければなりません。

文化財レスキューと当館の役割

資料課長　三浦　俊明

令和６年能登半島地震で被災した文化財の廃棄・散逸を防ぐため、現在、文化財レスキューが被災地で行われています。石川県から文化財の救援要請を受けた文化庁が本年２月より被災文化財等救援事業を開始し、独立行政法人国立文化財機構の文化財防災センターを中心とするレスキュー作業に当館も加わっています。

私が参加した能登町の寺院のレスキューでは、仏像・仏画・位牌など、100点を超える資料を救出することになりました。文化庁・国立文化財機構・能登町教育委員会の職員、県外からの派遣学芸員に当館学芸員４名を加えて、総勢15名ほどの人数で手分けして作業を進めました。まず、救出資料を計測・撮影して記録を作成し、美術品用の梱包材で丁寧に梱包したうえで、寺院から一時保管場所へ搬出しました。労力と時間のかかる文化財レスキューには、全国各地から多くの学芸員・研究者が応援に駆け付けていただき、大変心強く感じています。

文化財レスキューは「被災文化財等救援事業」の名称で実施されていますが、文化財に「等」が付けられているのは、対象が文化財以外の資料にも及んでいることを示しています。重要文化財などの指定文化財だけでなく、文化財に指定されていない資料もレスキューの対象としていることに大きな意義があります。

当館では石川県の歴史と文化に関わる資料約12万９千点を所蔵していますが、このうち、国・県の指定文化財は3,588点で、総数の３％にすぎません。能登の歴史や文化を伝えるためには、指定文化財以外に膨大な量の資料を残していく必要があることをご理解いただけると思います。

被災地から救出された資料は、能登の各所に設置された一時保管場所で保管されていますが、当館でも一時保管を行っています。また、レスキュー用具や梱包材など、文化財防災センターの資材を保管するスペースを当館内に設けています。能登の文化財レスキューで多角的な支援を展開できるよう当館の機能を最大限に活かしていきたいと考えています。

所蔵者からのＳＯＳ

学芸主任　岡崎　道子

この度の震災では、当館が過去の展覧会でお世話になった方々も多数被災されました。現在当館では、文化財レスキュー活動と並行して、お見舞いを兼ねた文化財の被災状況調査を行っております。

発災直後は皆さんが無事であるかもわからず、また無事であっても、家屋がつぶれ、水道・電気が止まっているような状況で、安否の確認、ましてや文化財の状況などとても聞けないと、直接の連絡はできずにいました。そんな折、「仏像を救出してほしい」「壊れた文化財の直し方を教えてほしい」と、幾人かの方々からお電話をいただきました。文化財レスキューが被災地からも求められていることがわかり勇気づけられましたし、「前に展示したことがあったから連絡しました」と言われて、当館が地域に果たしていくべき役割についても深く考えさせられました。

調査・展示を通じて所有者や地域の方々と文化財の価値を共有していくことは、普段でももちろん大切ですが、災害時にあっても、その文化財を救うことができるという点で非常に重要です。今回の災害でも、過去の展覧会図録や報告書がレスキューの糸口として役立っています。

一方で被災された方の中には、「石川歴博が展示したのだから大事なものだろう、早く救出しなければ」と、心を痛めておられる方もいました。日々の生活が困難な中、文化財にまで気を配ってくださるのは大変ありがたいことですが、当館が展示をしなければ、ここまで心悩ませることはなかったのではないか、重荷を増やしてしまったのではないかと思うこともあります。早く救出して、少しでも明るい気持ちになっていただければと、そう思いながら活動しています。

地震から半年以上が経過した現在、県内各地で着々とレスキュー活動が進んでおり、それと並行して、被災相談も引き続き寄せられています。被害は甚大、課題は山積みですが、一つ一つ、できることをやっていきたいと思います。

高爪山（志賀町大福寺集落から）令和５年５月30日　撮影

当館の主な文化財レスキュー活動状況
【５月～６月】

期　日	曜日	活動内容
5月　9日	木	輪島市　神社 文化財防災センター(以下、文防)レスキュー参加
5月10日	金	中能登町　個人宅　文防レスキュー参加
5月14日	火	柳田収蔵庫復旧作業（車両故障のため引き返す）
5月15日	水	珠洲市　個人宅（２件）　文防レスキュー参加
		志賀町　レスキュー予備調査
5月16日	木	能登町　寺院　文防レスキュー参加
5月17日	金	七尾市　神社　現地調査
		珠洲市　個人宅、寺院　現地調査
		珠洲市　公民館　避難所関係資料収集
5月21日	火	志賀町　個人宅　現地調査
5月23日	木	輪島市　寺院　文防レスキュー参加
5月24日	金	志賀町　現地調査、レスキュー予備調査
5月29日	水	志賀町　レスキュー予備調査
5月30日	木	珠洲市　寺院　文防レスキュー参加
5月31日	金	羽咋市　寺院　レスキュー予備調査
6月　5日	水	穴水町　レスキュー予備調査
6月　6日	木	志賀町　個人宅（２件）　レスキュー
6月12日	水	川北町　個人宅　現地調査
6月13日	木	志賀町　個人宅　レスキュー
6月14日	金	柳田収蔵庫復旧作業
6月18日	火	志賀町　神社、個人宅　現地調査
		輪島市　神社 仏像を一時保管場所から歴史博物館へ移送
6月19日	水	七尾市　寺院　文防レスキュー参加
		穴水町　レスキュー予備調査
6月20日	木	七尾市　寺院　文防レスキュー参加
6月21日	金	七尾市　寺院　文防レスキュー参加
6月25日	火	輪島市　現地調査
6月26日	水	羽咋市・中能登町　レスキュー予備調査
6月27日	木	珠洲市　現地調査、レスキュー予備調査

文化財レスキューとは

地震で被害を受けた、もしくは倒壊しそうな建物に残された「文化財」の救出避難・応急措置・一時保管を実施する事業です。石川県では国の文化財防災センターと連携して学芸員らによるレスキュー隊を編成しており、当館も県立博物館として活動にあたっています。
なお、ここで言う「文化財」とは、地域の歴史を伝える有形文化財や有形民俗文化財を指しますが、指定の有無は問いません。

催し物案内 Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。
※各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。

7月　休館日：7/16(火)～7/18(木)

27日（土） れきはくゼミナール　聴講無料／申込不要
「加賀藩年寄衆八家の席次」講師：林 亮太（当館学芸主任）

28日（日） 「知の大冒険　― 東洋文庫　名品の煌めき ― 」ワークショップ
「自分だけの絵地図をつくってみよう！」　参加無料／要申込
講師：鈴木 浩之 氏（金沢美術工芸大学美術科油画専攻教授）

8月　休館日：8/5(月)

3日（土） 「知の大冒険　― 東洋文庫　名品の煌めき ― 」展示解説
講師：吉田 朋生（当館学芸員）　要展覧会チケット／申込不要

4日（日） 「知の大冒険　― 東洋文庫　名品の煌めき ― 」記念講演会
「知の大冒険攻略ガイド ― 名品で旅する東洋世界 ― （仮）」　聴講無料／要申込
講師：
岡崎 礼奈 氏（公益財団法人東洋文庫普及展示部学芸課長・主幹研究員）
篠木 由喜 氏（公益財団法人東洋文庫普及展示部研究員・学芸員）

18日（日） 「知の大冒険　― 東洋文庫　名品の煌めき ― 」　参加無料／申込不要
ミュージアムコンサート「西洋と東洋が出会う音楽の旅」
演奏者：筒井 裕朗（サクソフォン）・堺 洋子（電子ピアノ）

21日（水） 「知の大冒険　― 東洋文庫　名品の煌めき ― 」
展示解説　要展覧会チケット／申込不要
講師：吉田 朋生（当館学芸員）

24日（土） れきはくゼミナール　聴講無料／申込不要
「霊柩車はなぜ東照宮を模したのか
― 金沢の近代葬儀史 ―」
講師：大門 哲（当館学芸主幹）

9月　休館日：9/2(月)～9/3(火)

14日（土） れきはくゼミナール　聴講無料／申込不要
「細工物と手芸 ― 女性たちの手仕事の世界 ―」
講師：大井 理恵（当館学芸課長）

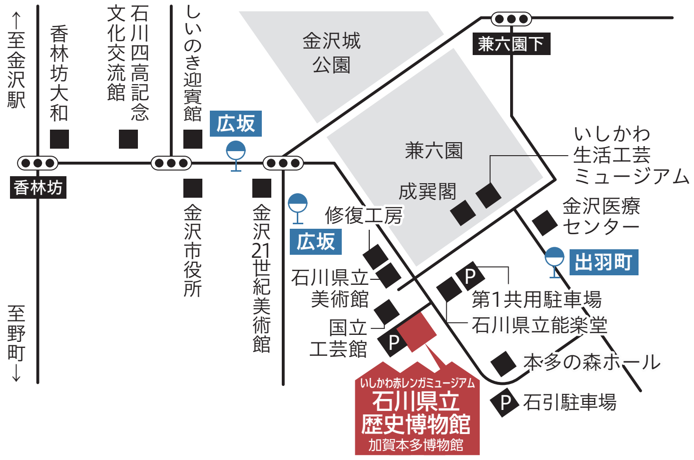
10月

19日（土） れきはくゼミナール　聴講無料／申込不要
「長家祐筆役の帳簿にみる武家の金融」
講師：吉田 朋生（当館学芸員）

お知らせ

レトロ建築見学会に参加しませんか？

　金沢城や兼六園周辺には、明治・大正期に建てられた「レトロ建築」が多く残されています。
　毎週土曜・日曜は地元ガイドが建物の外観や内部をご案内いたします。
　詳細は公式サイトをご確認ください。



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL：076-262-3236　FAX：076-262-1836
E-mail：rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
https://ishikawa-rekihaku.jp/